

探究課題：身近な自然環境とそこに起きている環境問題

ふるさと竹原の自然を守ろう PROJECT
「『ハチの干潟』調査し隊（たい）」

育成すべき資質・能力：①探究力 ②人と関わり、高め合う力 ③実現力 ④郷土愛

- 1 学年 第5学年
- 2 単元名 「『ハチの干潟』調査し隊（たい）」
- 3 単元設定の理由
- (1) 児童の実態から
- ア 児童と地域との関わりからの視点から

児童は、学校行事や総合的な学習の時間等において、年間を通して地域の方々と触れ合う機会が多く、学習や体験活動を支援してもらっている。令和元年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙の下記の項目における結果から、社会の出来事に関心をもったり地域の行事等に参加したりはしているが、自分の地域に対する愛着が低いことが分かる。

令和元年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙結果

質問内容		よく 当てはまる	やや 当てはまる	合計
社会の出来事や事件などに関心があります。	本校	64.8	24.1	88.9
	広島県	49.5	31.5	81.0
地域や子供会などの行事に参加しています。	本校	68.5	16.7	85.2
	広島県	44.6	20.5	65.1
自分の住んでいる地域のことが好きです。	本校	46.3	35.2	81.5
	広島県	67.6	22.5	90.1

イ 探究的な学習の過程等における児童の意識調査から

質問内容		よく 当てはまる	やや 当てはまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない
課題の設定	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	35.2	46.3	16.7	1.9
	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	46.3	46.3	7.4	0.0
情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	27.8	44.4	27.8	0.0
	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	27.8	50.0	16.7	5.6
分析・整理	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	14.8	48.1	35.2	1.9
	授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるかを考えています。	35.2	42.6	22.2	0.0
表現・まとめ	授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	40.7	40.7	18.5	0.0
	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	35.2	44.4	20.4	0.0

(ア) 課題の設定について

「解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」と肯定的に回答した児童は81.5%であった。また「解決しようとする課題について、『たぶんこうではないか』、『こうすればできるのではないか』と予想しています。」という設問においては、肯定的に回答した児童は92.6%であった。課題の設定においては、どちらの設問に対しても肯定的に回答している児童が多い。

(イ) 情報の収集について

「課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」と肯定的に回答した児童は72.2%であっ

た。また「課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。」と肯定的に回答した児童は 77.8%であった。しかし、「まったくあてはまらない」と回答している児童も 5.6%いることから、安易にインターネットや図書室の本を選択して闇雲に情報を探すなど、課題解決のための情報収集を計画的に行うことができていない児童が数名いることが考えられる。

(ウ) 情報の整理・分析について

「調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。」と肯定的に回答した児童は 63%で、児童の意識調査の質問項目のなかで一番低かった。また、「情報を比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのかを考えています。」という設問においては、肯定的に回答した児童は 77.8%であった。各教科等で身に付けた資質・能力を意識することや、どのような方法で情報の整理や分析を行えばよいかを吟味することができていないことが原因だと考えられる。

(エ) まとめ・表現について

「自分の考えを積極的に伝えています。」と肯定的に回答した児童は 81.5%であった。また、「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」と肯定的に回答した児童は 79.6%であった。まとめ・表現においても、肯定的に回答している児童は多いが、(ウ)から分かるように、情報に応じた適切な整理や分析の方法ができていないことを考えると、各教科等で獲得した表現方法を積極的に活用した、まとめ・表現にはなっていないと考える。

上記の児童実態から、地域の特色に応じた探究課題において、「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用するなどをして、整理・分析場面の学習活動の質を高めるための工夫を行う。そうすることで、真に探究的な学習や協働的な学習、教科等横断的な学習へと改善し、課題解決の意欲につながる手応えや地域社会に関わる喜びを児童に感じさせることができると考える。

(2) 題材について

ハチの干潟は、学校から徒歩 20 分の位置にあり、児童にとっては非常に親しみのある場所である。干潟の中央にはハチ岩と呼ばれる岩があり、この岩が名前の由来となっている。現存する干潟や藻場面積は、広島県中部海域で三番目の大きさで、そのままの自然が残されているのは全国的にも稀である。干潟にはハクセンシオマネキをはじめ、希少なスナガニ、ナメクジウオが生息しており、カブトガニの繁殖地としても注目を集めている。過去には、海のゴミ捨て場として埋め立てる計画が立ち上がったが、地元の方々の熱心な保全活動により、現在も手付かずの干潟として残されている。

児童にとって、希少な生き物は非常に興味・関心を抱きやすい対象である。また、生き物を通して、様々な生き物がいることや生育の環境がそれぞれに違うこと（多様性）、生き物はその周辺の環境と関わって生きていること（相互性）、自然環境は一定ではないこと（有限性）などを探究的に考えることができると考える。地域の方々と関わりながら協働的に保全活動を行ったり、専門家との交流を通して自然について主体的に学んだりすることで、地域の自然に愛着をもち、大切に思う心やこれからも守っていこうとする態度を育むことができる題材であると考えられる。

4 単元目標

○希少生物の観察や干潟の調査、周辺の清掃活動といった「ハチの干潟」についての情報を収集する体験を通して、干潟をこれからも守っていくために自分たちにできることは何かを考え、よりよく課題を解決しようとする。

○他者と協働して主体的に取り組む学習活動を通して、体験活動から手に入れた多様な情報を比較したり分類したりしながら整理する力や、異なる視点から検討して分析する力を身に付ける。

5 育成すべき資質・能力

資質・能力 の三つの柱	育成すべき 資質・能力	評価規準【探究の過程】
知識 及び 技能	知識 技能	○地域の自然について知り、生き物の多様性や生き物と環境の相互性、自然環境の有限性を理解している。 ○「ハチの干潟」は、全国的にも珍しい干潟であることや干潟の特徴、干潟を守るために努力してきた人々の思いや苦労などを理解している。 ○各教科で学んだ知識や技能を活用しようとしている。【まとめ・表現】
思考力, 判断力, 表現力等	探究力	○「ハチの干潟」やその周辺を探検し、竹原の自然や環境についての課題を設定することができる。【課題の設定】 ○「ハチの干潟」の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらうために必要な情報を適切な方法で集めている。【情報の収集】 ○自分や友達が収集した多様な情報を思考ツールを用いながら整理・分析し、自分の考えを深めたり広げたりしている。【情報の整理・分析】
	実現力	○相手や目的に合わせて新聞やポスター等に分かりやすくまとめたり、企画したことを実行しようとしたりしている。【まとめ・表現】
学びに 向かう力, 人間性等	人と関わり, 高め合う力	○友達と情報交換したり、地域の人や専門家に積極的に関わったりすることを通して、多くの情報を収集しようとしている。
	郷土愛	○地域の自然環境の素晴らしさに気付き、地域に誇りや愛着をもったり、地域のために何かできることはないか考えたりしている。

6 指導計画（全 70 時間）

次	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	☆思考ツール 活用例
一 「ハチの干潟」・専門家との出会い（11 時間）	情報の収集（8 時間） ○満潮時の賀茂川周辺に行き、生き物の調査を行う。 ○干潮時の賀茂川周辺に行き、満潮時と比べながら観察をする。 ○「ハチの干潟」に行き、干潟や干潟に生息する生物の調査を行う。 ○「ハチの干潟」のことを調べている専門家の方と一緒に生物を探したり、干潟について詳しく話を聞いたりする。〈知識・技能〉 ○6 年生から昨年度の学習の様子を聞いたり、新聞を読ませてもらったりする。〈人と関わり、高め合う力〉 情報の整理・分析（2 時間） ○体験したことや専門家の方から聞いた情報を整理する。〈探究力〉 課題の設定（1 時間） ○「ハチの干潟」について、もっと調べたいことや疑問に思うことなどを考え、解決していきたいことを決定する。〈探究力〉	干潮と満潮では、様子が全然違うな。塩の満ち干きってどうして起きるの？どこにいったの？ 満潮の時は気付かなかったけど、川底にゴミがあったよ。生き物のためにきれいにしないと！ どうして干潟には、珍しい生き物がたくさんいるのかな？川とどう違うのかな？何か秘密がありそうだ。干潟には何種類くらいの生き物がいるのかな？ 干潟の珍しい生き物についてもっと調べたい。カブトガニって本当にいるんだね。すごい！ 6 年生は、去年、どんなことを調べたのかな？聞いてみたい。 干潟の生き物が減っているって言うんだけど、川底のゴミと関係がありそうだな。どれぐらい減っているんだろう。 干潟には生き物の餌がたくさんあるって言うんだけど、川にはないのかな？どうして干潟にはたくさんあるの？ 全国的にも珍しい干潟がすぐ近くにあるなんて実はすごいことなんだね！もっと広めたいな。	【理科「花のつくり」】 粘り強く他者と関わりながら調べていく態度 【理科「メダカのたんじょう」】 生命を尊重する態度 成長と時間を関係付けて考察する力 【国語科「知りたいことを聞き出そう」】 意図を明確にして話す・聞く力 【社会科「日本の国土と人々のくらし」】 国土の様子をとらえ、その特色を考える力 問題の解決に向けて追及していく態度 【道徳科「シンボルマーク」】 積極的に地域に関わる態度	☆ウェビングマップ 観察前と観察後に書く（色を変えて付け足していく）。 ☆Y・Xチャート 自分が収集した情報を分類する。 ☆ピラミッドチャート これから解決していきたい課題を絞っていく。

次	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	☆思考ツール 活用例
二 「ハチの干潟」について本気で考える（14時間）	【単元名】「『ハチの干潟』調査し隊（たい）」 【学習課題】「ハチの干潟」を調査し、みんなに紹介しよう！ 課題の設定（2時間） ○前時に決定した自分の課題と学習課題を踏まえて、誰にどのような方法で紹介するのかを考える。 ○どのように調べていくのか計画を立てる。〈探究力〉 情報の収集（5時間） ○「ハチの干潟」の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらうために必要な情報を適切な方法で集める。〈知識・技能〉 情報の整理・分析（2時間） ○相手意識（下級生・他地域の小学生等）や発信手段（ポスター・新聞等）が同じ友達と協力しながら効果的な紹介の仕方を考える。〈人と関わり、高め合う力〉 まとめ・表現（5時間） ○「ハチの干潟」の魅力やおすすめポイントをまとめる。〈実現力〉 ○相手意識や発信手段が異なる友達と交流し、アドバイスを生かしながら改善する。 ○ポスターや新聞を専門家の人にも見てもらい、アドバイスをもらう。〈人と関わり、高め合う力〉	調べて分かったことを下級生に教えてあげたい。生き物の写真を使ったら分かりやすいだろうな。 「ハチの干潟」を知らない人や外国人に紹介して、竹原にもっと人を呼びたいな。カブトガニの赤ちゃんがいるって知ったらみんな驚くよ！ポスターを作って貼ったらどう？ 道の駅にあるパンフレットや竹原市のHPで調べてみよう！ 図書館に干潟の生き物の図鑑があったよ。「ハチの干潟」も載っていたよ。 生き物の写真より、ゴミをアップにした写真の方が効果的だと思うよ。 干潟に住む生き物のことをもっと知ってほしいな。クイズを入れたら興味をもって読んでくれそうだよ。生き物が実際に動いている様子を動画で流すのもいいんじゃない？ 国語の授業で、見出しや写真の効果や、事実と考えを区別して書くことを学んだよね。あのときのことを思い出して書こう。 難しい言葉がたくさんあってよく分からないよ。補足説明があればいいのに。 生き物の紹介だけでなく、干潟を守っていくことについても考えてもらえるようなものにならないといけないね。	【国語科「事実と考えを区別しよう」】 事実と考えを区別して書く力 【国語科「環境問題について報告しよう」】 資料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確に書く力 【国語科「書き手の意図を考えよう」】 目的や意図に応じて書く力 【算数科「わくわく算数」】 図、式、言葉を関連付けて説明する力 【算数科「比例」】 進んで図や表を使って考えたり説明したりする態度 【社会科「食生活を支える食料生産」】 資料から読み取ったことと理由を関連付けて考える力 【道徳科「みんなの劇」】 違う考えや立場を認め、尊重する態度	☆ステップ チャート どのような手順で調べていくか大体の計画を立てる。 ☆Y・Xチャート 自分が収集した情報を分類し、それぞれの部屋をキーワードでまとめる。 ☆PMIシート 発信手段のメリットやデメリットを考え、自分が何を使って情報発信をするのか決める。
三 地域貢献のよさを実感する（11時間）	【単元名】「『ハチの干潟』活動し隊（たい）」 【新たな学習課題】「ハチの干潟」をよりよい環境にしていくために自分達にできることを考え、実行していこう！ 新たな課題の設定（1時間） ○「ハチの干潟」をよりよい自然環境にしていくために自分にできることはないか考える。〈郷土愛〉 情報の収集（10時間） ○干潟に関係する過去の出来事や保全活動、干潟を守るために努力してきた人々の思いや苦労などを調べる。〈知識・技能〉 ○再度、干潟に調査に行ったり、ボランティア活動をしている方や竹原市役所の方などに聞き取り調査をしたりする。〈人と関わり、高め合う力〉 ○「ハチの干潟」で行われている生き物観察会や清掃活動に参加し、実際の活動を体験する。〈知識・技能〉 〈郷土愛〉	たくさんの人に干潟に来て欲しいけど、ゴミが増えるのは困るな。 地域の人達はどんなことをしながら干潟を守ってきたのかな？ ぼくたちにも何か手伝えることがあるんじゃないかな？ 過去には埋め立てる計画もあったんだね。 干潟や干潟の生き物の大切さを広めるために、ボランティア活動や生き物観察会をしている人があるんだね。話を聞いてみたい。参加してみたい。 ボランティアって気持ちがいいね。干潟の生き物も探せるし、楽しい！これからは、他のボランティア活動にも積極的に参加してみよう。 お手伝いができてよかった。お礼を言われると、うれしいね。役に立ててよかったね。	【特別活動「野外活動に向けて」】 自分の思いを相手に分かりやすく伝える力 相手の立場に立って考える力 【道徳科「海を耕す人たち」】 自然愛護 努力している人々に共感する心 貢献しようとする態度 【家庭科「整理・整とんで快適に」】 環境に配慮した物の使い方を工夫する態度	☆Y・Xチャート 自分が収集した情報を分類し、それぞれの部屋をキーワードでまとめる。

次	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	思考ツール の活用例
四 自分にできることを考え、企画・試行する（14時間）	情報の整理・分析（2時間） ○調べたことや実際に体験して分かったことを整理し、よりよい環境にしていくための効果的な方法を考える。〈探究力〉 表現・実行（4時間） ○自分たちが考えたことが出来るかどうか、効果があるかどうか実際に試してみる。〈実現力〉 情報の収集、まとめ（4時間） ○他のグループと情報を交換したり、他地域での取組を調べたりしながら、どのような活動にするのかグループの意見をまとめる。〈探究力〉 表現・実行（4時間） ○グループで発表を交流し、アドバイスをし合う。 ○専門家の方やボランティア活動をしている方、竹原市役所の方等に自分たちがしようとしている活動を聞いてもらい、アドバイスをもらう。〈人と関わり、高め合う力〉	一学期に作った新聞に、実際にボランティアに参加してみて分かったことや感じたことを付け加えたい。 新聞やパンフレットも大切だけど、もっとぼくたち自身が清掃活動や干潟を広める活動を企画したらいいんじゃない？ 「ハチの干潟」検定を作るのはどうかな？ 賀茂川や「ハチの干潟」周辺のゴミを袋1枚分集めたら賞状をあげるのはどう？ 「ハチの干潟」検定、おもしろそうだね。行ってみたいくなるね！ 一回賞状をもらったら、もうやらないんじゃない？バッジはどう？バッジのキャラクターを募集してもおもしろそうだね。 説明だけじゃなくて、体験できるようなものがあればいいと思うよ。分かりやすくなると思うよ。 何かしようと思ったら、やっぱりお金がかかるんだね。協力してくれる人を探してみよう。 「ハチの干潟」検定を作って、まずは学校でやってみようよ。児童会や生き物委員会にも相談して、みんなでやってみよう！	【国語科「問題を解決するために話し合おう」】 計画的に話し合い、考えをまとめ、広げる力 【国語科「伝えたい、心に残る言葉」】 目的や意図に応じて話の構成や表現を工夫して話す力 【社会科「情報社会に生きるわたしたち」】 情報の扱い方について理解し、自分の考えを表現する力 【特別活動「よりよい学級に」】 学級や学校へ参画する態度 【特別活動「発表会に向けて」】 協力してよりよいものを創造していこうとする態度 相手意識や目的意識をもって表現する力 【道徳科「世界の文化遺産」】 郷土を愛する心	☆ウェビングマップ 自分たちにできることを考え、アイデアを出し合う。 ☆ピラミッドチャート 効果的な方法に絞っていく。 ☆Y・XチャートやPMIシート等 自分たちの班の情報や評価を整理するのに有効な思考ツールを各班で選ばせる。
五 企画したことを実行する（11時間）	【単元名】「『ハチの干潟』広め隊（たい）」 【新たな学習課題】「ハチの干潟」をこれからもよりよい自然環境にしていくために、竹原のために、自分達にできることはないか考えよう。 情報の整理・分析（2時間） ○1、2学期の活動の反省や、専門家の方々からのアドバイスを踏まえながら、グループの企画書を改善する。〈探究力〉 新たな課題の設定（2時間） ○持続可能な企画（来年度に引き継げるようなもの）になるように考える。 ○実行に向けて具体的な計画を立てる。〈探究力〉 まとめ・表現（2時間） ○企画書を発表し合い、感想を交流する。〈実現力〉 ○何をするか決定する。 実行（5時間） ○実現に向けて協力して準備する。 ○企画したことを実行する。〈人と関わり、高め合う力〉 〈郷土愛〉	〇〇さんが△△って言っていたけど、もっと詳しく調べて参考してみようよ。 やっぱり「ハチの干潟」検定を実現させたい！ 気軽に参加できるボランティア活動を企画して、そこで新聞やパンフレットを配ろうよ。 私たちだけの活動で終わるんじゃないかって、これからもずっと続けられるようなものにしたいね。 4年生に今年の活動を紹介して、引き継いでもらおうよ。 干潟のことを知ってもらうために、「ハチの干潟検定」を作成します。 干潟のキャラクターを募集して、グッズを作ります。検定に合格したり、ボランティア活動に参加したりしたらもらえます。 たくさんの人に参加してもらいたいね。みんなが喜んでくれるといいね。地域のために働いてやっぱり気持ちいいね。 みんなで協力してひとつのことをやり遂げるって楽しいね。	【理科「雲と天気の変化」】 収集した情報を考察して規則性を見いだす力 【算数科「面積」】 既習をもとに工夫して考える力 【算数科「変わり方」】 集めた資料を適切なグラフに整理する力 グラフや表のよさに気付き、進んで活用しようとする態度 【社会科「国土の環境を守る」】 事例を比較したり、情報を活用したりする力 自分にできることを考えようとする力 【特別活動「6年生のために」】 会を企画・運営していく力	☆ステップチャート どのような手順で実行していくか計画を立てる。 ☆Y・XチャートやPMIシート等 自分たちの班の情報や評価を整理するのに有効な思考ツールを各班で選ばせる。

次	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	思考ツールの 活用例
六 次 年 度 へ 引 き 継 ぐ （ 持 続 可 能 な 取 組 に 向 け て ） （ 9 時 間 ）	情報の収集（2時間） ○実行して感じたことや、反省点、改善点などを話し合う。 ○持続可能な取組にしていけるためには、今後どうすればよいか話し合う。〈人と関わり、高め合う力〉 〈郷土愛〉 新たな課題の設定（1時間） ○次年度に引き継ぐための方法を考える。 情報の整理・分析・まとめ（2時間） ○いろいろな立場から考え、何を、誰に、どのように引き継ぐのがいいのかを考え、決定する。〈探究力〉 表現・実行（4時間） ○引き継ぎに向けて役割分担をしながら協力して準備を進める。 ○引き継ぎの会を行う。 〈実現力〉 〈郷土愛〉	インターネットや本で調べるよりも、実際に見たり触ったりするとよく分かったよね。 「ハチの干潟」検定ならヴァージョンアップさせながら続けられそうじゃないかな？ 生き物の観察会や清掃活動も定期的に続けていきたいね。 おうちの人や地域の人にも協力してもらえないかな？ やってみてわかったことがたくさんあるよ。4年生にも体験してもらいたいね。 説明だけでなく、写真や動画で伝えよう。 難しかったことも伝えて、来年の課題にしてもらうのはどう？ 「ハチの干潟」や竹原のことを自慢できるっていいね。もっと大切にしていきたいね。	【国語科「心が動いたことを三十一音で表そう」】 表現を整えて書く力 【国語科「資料を見て考えたことを話そう」】 資料と関連付けて自分の考えを伝える力 【国語科「わたしの文章見本帳を作ろう」】 よさを生かして書き換える力 【道徳科「ちひろの思い」】 公共のために役立ちたいという心 【特別活動「6年生に向けて」】 リーダーとしての自覚 学級や学校へ参画する態度 自己を見つめ直す力	☆ウェブマップ 自分たちにできることを考え、アイデアを出し合う。 ☆ピラミッドチャート 持続可能な取組になるよう絞っていく。 ☆ステップチャート 実行に向けて計画を立てる。

7 本時の学習

（1）本時の目標

○「ハチの干潟」を紹介するための効果的な方法を話し合うことを通して、自分や友達がこれまでに収集した多様な情報を整理・分析し、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

【育成すべき資質・能力：「探究力」「人と関わり、高め合う力」】

（2）準備物

ワークシート、付箋、総合ファイル、タブレット型PC、電子黒板、

（3）学習の展開（19・20時間目/全70時間）

	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	◆指導上の留意点 ☆思考ツールの活用
課題の設定	1 これまでの学習を振り返り、今日のめあてを確認する。 ・収集した情報を交換し、より効果的な紹介の仕方を考える。	自分が集めた情報をみんなに聞いてほしいな。 友達はどんなことを調べているのかな？聞いてみたい。 効果的ってどういうこと？国語で習った相手意識とか目的意識のこと？	【国語科「書き手の意図を考えよう」】 目的や意図に応じて書く力	◆なぜ「ハチの干潟」のことを調べて紹介しようとしているのかを振り返ることで、効果的な紹介方法について考えさせる。
	【単元名】「『ハチの干潟』調査し隊（たい）」 【めあて】調査して分かったことや感じたことを効果的に伝える方法を考えよう。 ～「誰に？」「何を？」「どうやって？」「何のために？」～			
情報の整理	2 前時までに自分が収集した情報を自分なりに整理する。 〈実現力〉 ・付箋にキーワードでまとめる。	友達に紹介するために、分かりやすくまとめておこう。短い言葉が分かりやすいね。 この情報とこの情報は「環境問題」としてまとめて説明しよう。	【国語科「環境問題について報告しよう」】 資料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確に書く力	◆付箋に自分の集めた情報をキーワードで要約させ、ある程度分類させておく。

	学習活動 〈育成すべき資質・能力〉	予想される 児童の反応	【教科等横断的な単元】 他教科等で育成を目指す資質・能力	◆指導上の留意点 ☆思考ツールの活用
情報の収集・分析	3 伝える相手が同じグループで集まって話し合う。 ・情報を共有する。 ・効果を考える。 〈人と関わり、高め合う力〉	この情報いいね。詳しく教えてよ！ 埋め立て計画があったことを4年生に伝えても効果は薄いんじゃないかな？	【国語科「知りたいことを聞き出そう」】 意図を明確にして話す・聞く力	☆座標軸 ◆相手にとって分かりやすいか、「ハチの干潟」を広めるのに効果があるかという二つの視点で情報を整理させる。
	4 発信手段が同じグループで集まって話し合う。 ・情報を共有する。 ・効果を考える。 〈人と関わり、高め合う力〉	この情報って何で調べたの？私のとは少し違うけど、どっちが正しいのかな？ 低学年に新聞は難しい？ 生き物の説明は、文章で書くより、写真や動画で見せた方が分かりやすいよ。	【算数科「わくわく算数」】 図、式、言葉に関連付けて説明する力	☆PMIシート ◆発信手段のメリットやデメリットを整理し、効果的な発信手段を考える。 ◆各グループで協議した際に使った思考ツールは、写真に撮り、あとで見直せるようにする。
情報の整理	5 友達の意見を踏まえて、もう一度自分が使いたい情報を整理し直す。	〇〇君の言う通り、4年生には埋め立て計画のことは難しいからやめておこうかな。 〇〇さんは、表やグラフを使ってまとめていて分かりやすかったな。	【道徳科「みんなの劇」】 違う考えや立場を認め、尊重する態度	◆写真をしながら、個人で情報の整理をさせる。
	6 新聞やリーフレットに表現する。〈実現力〉 ・思考ツールを選択する。 ・構成を考える。	ぼくは伝えたい情報が多いから、ピラミッドチャートで絞っていいこう。 私は新聞に書く順番を考え直したいから、ステップチャートを使おうかな。	【算数科「比例」】 進んで図や表を使って考えたり説明したりする態度	☆ピラミッドチャートやステップチャート等 ◆何をどのように考えたいのかを意識させ、児童自身に思考ツールを選択させる。
新たな課題の設定に向けて	7 今日の学びを発表する。 ・振り返りを記入する。 ・今日の学びや思いを共有する。	私は「ハチの干潟」を何のために紹介するのかを意識しながら情報を交流することができました。 ぼくは、ピラミッドチャートを使って、一番伝えたい情報がどれなのかを整理することができてスッキリしました。	【国語科「環境問題について報告しよう」】 資料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確に書く力	◆振り返りシートに今日の学びや感想、次に頑張りたいことなどを記入させる。
	8 今後の活動についての見通しをもつ。〈探究力〉 ・新聞やリーフレットを完成させ、別のグループ（伝える相手や発信手段が異なる友達）と交流する。 ・専門家の人に新聞やリーフレットを読んでもらい、アドバイスをもらう。	早く完成させて、みんなに紹介したい。 リーフレットを書いている友達にも、私の新聞を読んでもらって感想を聞きたいな。 間違った情報を伝えてないか心配だから、専門家の〇〇さんに見てもらいたいな。 紹介するだけでいいのかな？次は何か自分たちで企画してみたいな。		◆児童の思いや願いに寄り添いながら今後の活動の計画を立てるようにする。

(4) 板書計画

単
元
名

ふるさと竹原の自然を守ろう PROJECT
「『ハチの干潟』調査し隊」

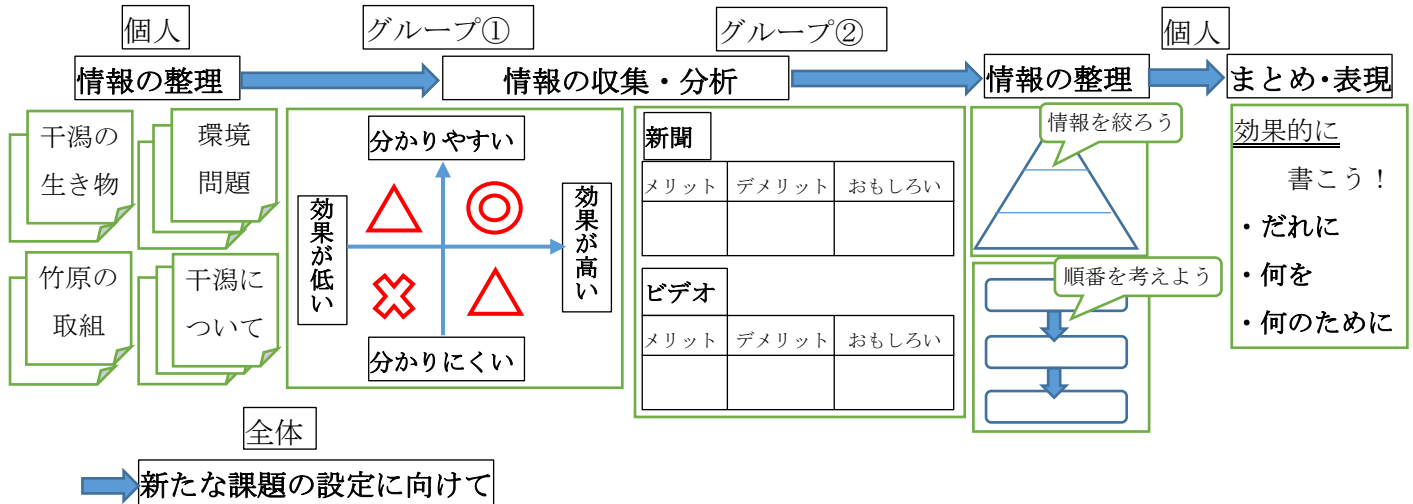
課
題

「ハチの干潟」をみんなに紹介しよう。

【本時のめあて】 調査して分かったことや感じたことを効果的に伝える方法を考えよう。

～「誰に？」「何を？」「どうやって？」「何のために？」～

- ・相手によってちがう。
- ・干潟のことをもっと知ってもらうため。
- ・好きになってもらうため。
- ・何をどうやって伝えたらいいか考える。



なるほど！

- ・誰に向けて、何のために新聞を書いているのかを考えながらまとめれば、効果的に伝えられる。
- ・ピラミッドチャートを使ったら、本当に伝えたいことがはっきりした。
- ・他のグループの人にも見せて、アドバイスをもらった方がもっといいものになりそう。
- ・専門家の〇〇さんにも見てもらいたい。